

令和5年10月27日

美咲町教育委員会
教育長 黒瀬 堅志 様

評価者 服部 康正
(岡山大学大学院 教育学研究科)

「美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」に関する所見

I はじめに

「令和4年度事業対象の美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」について、外部の第三者としての視点で検討評価させていただいた。本年度は第三次美咲町教育振興基本計画（令和3年度～令和7年度）の2年目に当たる。その観点から美咲町教育委員会が所掌する膨大な範囲の事業の中で学校教育に重点を置いた執行状況について関係資料の提供を受けた。新型コロナウイルス感染症は未だ終息は見えないもののやや落ち着き始めている。しかし、いつ感染拡大になるかもしれない中での取組状況であったことを考えると、教育委員会と学校が密に連携・協力・工夫し、鋭意努力され、その内容がほぼ達成できていることを高く評価したい。

第三次美咲町教育振興基本計画で示された小中一貫教育の充実、今年度周回の準備によって順調にスタートしている義務教育学校旭学園に続き、来年度開校する柵原学園もスムーズにスタートできることを期待したい。

II 教育委員会の組織及び活動について

教育委員会の活動は、定例会議のほか研修会への参加、学校訪問など精力的に実施されている。前年度の訪問に加えて各児童館の訪問もなされているようで、現場を知ろうとする細かな配慮を感じる。会議の内容は、教育行政の重点目標及び施策、人事、施設管理、予算決算事務、就学、教育振興基本計画、義務教育学校、教育課程、学校の様子、学力状況等多くの議題が、十分な時間をかけて審議・協議ができています。

III 教育委員会が管理執行する事務について

1 基本的・総務的事務

教育行政重点施策の策定等、基本方針の多くは事務局が原案や資料を提出し、教育委員会として協議や審議を行い、美咲町教育振興基本計画を基に年度ごとに重点方策を設けて推進してきている。また、近年の地方教育行政の組織

及び運営に関する法律改正等に伴い、必要と考えられる規則等について積極的に制定・改正を行っていることを評価したい。

旭地域に令和5年度、柵原地域に令和6年度義務教育学校が創設されることを受けて、第2次美咲町教育振興基本計画(H29～R3)では、対応できない事業等が出てきたため、1年前倒して第三次美咲町教育振興基本計画を策定、令和3年度から施行してきている。令和2年度から美咲町内全小中学校において中央地域、旭地域、柵原地域それぞれを小中一貫教育校に指定し、義務教育9年間に一貫性のある教育を研究・展開していくことを重点に取り組んでおられることを高く評価したい。

2 人的管理に属する事務

県費負担教職員の人事については、津山教育事務所と連携を図りながら、喫緊の課題である学力向上や問題行動の解決に向けた学校組織の強化は重要である。個々の教職員の指導力向上に向けて研修の充実は極めて必要なことである。校内だけの研修に留まらず、校外における研修の機会の提供や学校と教育委員会とが連携し、有益な研修を行っていただきたい。

また、今までになかった新たな問題や教職員の多忙化の対応など多岐にわたる課題に対し、校長、教頭の手腕が問われる場面は多い。その意味でも今日の学校運営は、管理職の能力とともに学校と教育委員会とが密に「情報共有」し、連携しながら、ケースによっては支援を、必要によっては指導助言等を行うことが重要と考える。その点、美咲町教育委員会はスピード感をもって対応できていることを高く評価したい。

特別支援教育を充実していくことはとても重要である。そのための体制づくりをしっかりとしていることが基本であるが、指導を要する児童・生徒を目の前にした時、県費負担教員の配置基準による教員数だけでは指導しきれない場合、適切に町費による教育支援員の配置・負担を行っていることがすばらしい。

IV 主要事業の点検評価について

昨年度も同じことを書かしていただいたが、美咲の学校教育グランドデザインは基本目標「自ら学び 共につながり みんなの夢を育む 美咲の人づくり」に向け、重点施策『小中一貫教育の推進』に取組み、「自立 共生 郷土を愛する心」を育み、美咲町の「ひと 輝くまち みさき」を実現しようとしている。1枚物でとても分かりやすいシートになっていると思う。

1 重点施策

(1) 小中一貫教育の推進

○旭小中一貫教育校では、外国語活動・外国語、音楽、体育を中学校教員

が指導でき、反対に中学校の美術を小学校教員が指導したり、英語 T2、部活動へ参加したり、次年度に向けてチーム学校として一枚岩になる下準備が出来つつある。

中央小中一貫教育校では理科、柵原小中一貫教育校では外国語、理科、算数と乗り入れ授業の研究、実施が進んでいる。

各地域小中一貫教育研修会の実施状況はそれぞれの実態に応じた研修ができたようで喜ばしいことである。

生活科・総合的な学習の時間研究に精力的に取り組んでいることを評価したい。今後各教科で得た知識等を活用し、教科横断的に統合した総合的な学習の時間の充実度がますます重要になってくると思う。子どもたちにとって直に地域の人々と関わり、人々の生活、文化等にふれ、社会と繋がる学びができるからである。近隣では真庭市立遷喬小学校が先進的な取り組みをし、この生活科・総合的な学習の時間の研究を何十年も取り組んでいる。参考にされてもよいかもしれない。

○キャリア教育の推進では R4 美咲町生活学習アンケートを取られ、その結果「自分にはよいところがある」小 82%中 87%、「課題解決に取り組む」小 84%中 87%、「友達と仲良く助け合う」小 94%中 95%「将来の夢や目標を持つ」小 85%中 75%とどの項目も高い数値を示している。小学校から中学校へ上がるにつれ前 3 項目は中学校が小学校を上回り理想的である。唯一将来像については学年が上がると心配なのか夢がもてなくなるのか低くなっている。ここを何とかしたいと思うのは私だけでしょうか。

○コミュニティ・スクールの推進では、旭小学校旭中学校学校運営協議会が開催した「あさひの未来ワーク 2022」の取り組みはとて素晴らしい。地域の魅力や課題について中学生と地域の方々と意見交換をし、さらには特産品の開発や販売に子どもたちが関わる活動ができ、地域での学びが深まり、地域の盛り上がりを感じる。このような取り組みは今までのような学校だけでは到底できないと思う。学校運営協議会で学校、地域、保護者それぞれが対等に意見を出し合い、子どもにとっても地域にとっても Win-Win の関係を作りだしている。このような取り組みが柵原中学校区学校運営協議会でも柵原学園に向け、「柵原でどんな子どもを育てたいか」等学校と地域で目指す子ども像を共有し、実際柵原学園になった時、どんどん実現してほしいと思う。中央中学校区のそれぞれの学校運営協議会も同じように学校と地域が Win-Win の関係を作りだす取り組みが増えていくことを願っている。

(2) 義務教育学校の創設

柵原地域、旭地域どちらも開校準備委員会は4つの部会で、旭地域は時間的なことがあるため、ワーキンググループでスケジュール目標を、柵原地域は将来的なことも見据えてどちらも全力で達成されている。

創設にあたってはどちらの地域も校名・校章・校歌・制服等の選定方法の検討やカリキュラムの作成や敷地造成計画や施設プランや通学方法の確認など細部にわたって検討や取りまとめが行われている。特に柵原地域では通学部会で通学区域が広がることによって、徒歩及び自転車の想定通学路、スクールバス路線、停留所等新たなことを検討しなければいけないため大変だったのではないかと推察する。また、旭地域では来年度開校を見据えて各種教育全体計画・年間指導計画を作成・改善したことを評価する。ご存知のように既に開校している旭学園はこの周到な準備をして力強くスタートしている。来年4月開校になる柵原学園も周到な準備をして夢拓く学校になることを切に望んでいる。

2 基本施策

(1) 確かな学力プラン(知)

①授業改善の推進・学力向上の支援

R3年度は国・算・数で「授業の内容はよくわかる」の肯定率が上がっていたが、R4年度は国・社・算・数・外国語で肯定的回答率が向上している。大変大きな成果を上げている。小学校理科だけがアンケートの数値をみる限り課題があるようだ。子どもたちには自然現象やいろいろな事象に興味関心をもってもらいたいと思うのだが。指導する先生にも理科を苦手とする教員が増えているとも聞く。国語、算数に特化した研修が多いことも一方であるのかもしれない。理科以外は非常に大きな成果を上げているのは探求的なルーブリック表の作成が指導者の理解を進めたことだけは確実に言えるのではないかと考える。昨年もタブレット端末の利用については高く評価したが、R4年度はさらに活用率が上がり、1日1回以上が小学校62.7%中学校62.2%まで授業の活用が進んでいる。教育委員会の指導もさることながら、学校現場の先生方がよく頑張っていると感じた。

②家庭学習の習慣形成及び読書の習慣形成の推進

家庭学習の時間についての強化が実り「平日家庭学習を1時間以上」するが小学校6年61.6%中学校78.6%とプラス傾向にある。一方家庭での過ごし方には改善が必要とある。やはり昨年も記述したが家庭での過ごし方、或いは家庭学習については、言われてするのではなく自ら自分

で計画し、自分で判断して取り組む学習等が重要と思う。保護者の意識を変える働きかけは難しいことであるが、粘り強く取り組んでいていただきたいと思う。

「読書が好きである」とアンケートで小中 80%以上が答えているのはとても良いことである。

③特別支援教育の充実

特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりをするために、全小中学校で校内研修を実施し、講師派遣や専門機関との連携も精力的にできている。教育支援員加配置 1 件（弱視）できたことや個別支援指導計画の作成 100%もすばらしい。

④情報教育の推進

タブレット端末を活用した授業づくり研修を町教委主催で 5 回行った実績やタブレット端末を効果的に活用した授業公開を全校で実施したことを高く評価する。また、学習支援ソフトによる補充学習の強化や WinBird を導入し、家庭でのタブレット活用を始めるなど、日常的に ICT を活用できる環境を整える努力に町教委の支援を高く評価する。

⑤郷土学習の充実

全ての小中学校で郷土に関する総合的な学習に取り組めたことがまずよい。その中で地域活性化へ向けた探求的な学習成果が見られ始めたことも大きい。ますます探求的な郷土学習の充実と開拓が求められるようになると思う。

⑥英語学習の充実

小中一貫 9 年間の系統的な英語教育を推進するために中学校からの乗り入れ授業の実施やコロナ禍で R4 年度は実施できなかったが、交流事業による語学学習や生活体験による英語力の向上と国際感覚の育成などを考えている美咲町はとても充実している。

⑦保小接続の推進

年 3 回の担当者会や年間の保小交流や授業、保育実践の参観・体験研修を実施したことや小学校ごとに保育体験や参観を行い、次年度のスタートカリキュラムを作成・実施できたことは大きい。

(2) 豊かな心プラン(徳)

①②人権教育・道徳教育の充実

日頃から人権意識をもち、人権感覚を高める環境の整備は大切である。R4 年度も人権週間に合わせ、全校で道徳の授業公開を行ったことを評価しておきたい。

③協同的な人間関係づくり

質問紙調査「hyper-QU」学級満足度・学校生活度尺度・ソーシャルスキル尺度を用いての客観的データで小学校も中学校も満足度が前学期より増えプラスになっていることは良好な学級集団ができているということである。認め合い支え合う学級集団づくり、学校づくりの基盤を大切にいただきたい。

④いじめ・不登校の対応

目標はいじめ解消率 100%、この数字に近づくことを願う。令和4年度は小学校 24 件、解消率 92%、中学校 10 件、解消率 83%と記述してあった。件数が前年度よりも増えたのはコロナ禍ということもあろう。中学校の事例 2 件は小学校の継続と書かれていたことを考えると、よく言われることだが、実態把握と早期対応、そして関係機関との連携がなりより大切ということだろう。

昨年度も同じことを書いたが、長期欠席・不登校対応では、是非とも小学校でこの対応を頑張ってもらいたいと思う。小学校で不登校児童が増えると、中学校入学時から現存することになる。そうすると益々増えていくことになるからである。不登校については社会問題になっている「80・50 問題」につながっていく可能性があるので、今後も是非増加傾向を減らしていただきたいと思います。

(3) 健やかな体プラン(体)

①生活習慣の確立及び健康教育の推進

基本的な生活習慣の確立で大切なことは、時間を守り、朝食は勿論 3 食をしっかりととり、十分な睡眠をとることである。特に一日の睡眠時間が目標と児童生徒の実態が大きくかけ離れていて問題である。引き続き取り組みを粘り強く取り組んでほしい。

スマートフォンの利用時間はコロナ禍の行動制限もあり、時間が増えるのは致し方ないと思うが、児童生徒の健康を考えると睡眠時間が減るので好ましいことではない。確かに児童生徒自身が主体的に解決しているところとする取り組みもなされているが、家庭のルールづくりがもう少しできないものかと考えてしまう。

②体力・運動能力の向上

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は県平均以上で小学校 5 年は男女共に高く、中学校 2 年は大きく向上し高いと大変喜ばしいことである。また同じ調査で「体育の授業は楽しい」ということについても県平均以上で高い。現在でも中学校教員による小学校へ乗り

入れ授業がなされているが、義務教育学校になるとさらに壁がなくなり、回数や授業内容の質も上がり、期待が持てる。

(4) 美咲町立学校教育職員の働き方改革

学校教職員の働き方改革を応援・支援・推進を美咲町教育委員会は真摯に受け止め、指導や設備の整備・業務支援等をしていただいている。学校閉庁日の年 14 日実施、定時退庁日の月 1 回以上の実施、総合型校務支援システムによる成績処理等の業務支援、美咲町部活動ガイドラインの部活動休養日等の実施などである。そのような町教育委員会のフォローがあり、1 年間を通じ、超過勤務時間平均 45 時間を下回ることが達成でき、とても素晴らしい実績ができています。だからこそ教員は、自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、児童生徒に対して効果的な教育活動を行うことを頑張りたいのである。

V おわりに

「ピンチはチャンス！」とよく言われる。新型コロナウイルス感染症は人類に新たな伝染病をもたらした。日本ではちょうどそのころ GIGA スクール構想が推進時期にさしかかっていた。この 2 年で日本は 1 人の児童生徒に 1 台タブレット端末を持たせ、学ぶ環境を整えたのである。考え方によっては新型コロナウイルス感染拡大がなかったら、このように急速に ICT 環境は整えられなかったのではないかと思う。美咲町の学校についていえば平成 28 年度に柵原地域の学校について今後のあり方を検討することが始まっている。検討委員会を立ち上げ令和元年に答申書が提出され、令和 6 年度から 9 年間を見通した小中一貫教育を行う義務教育学校を創設することになった。今年度 4 月開校している旭学園は令和 2 年度旭保育園、旭小学校、旭中学校の保護者から議会に「旭地域に小・中学校の存続の要望書」が出されたのである。私たちが住んでいる旭地域から学校がなくなるかもしれないという急を要する大ピンチなのである。だからこそ地域住民、子どもをもつ保護者が結束し、柵原地域より早く、旭学園を創設することになる。そして、この 4 月旭学園は力強くスタート切っている。このようなことを考えると、今ある現状をピンチと捉え、それをチャンスに変えることが如何に大切なことか分かる。新しいことを生み出す力によって可能性が広がるのではないかと思う。そのように考えていくと美咲町の第三次美咲町教育振興基本計画には基本目標として「自ら学び共につながり みんなの夢を育む 美咲の人づくり」とあり、最も重要なことが根幹に据えられている。この素晴らしい理念を皆が共有し、推進していくこ

とが大切である。

今回私は 2 回目の評価をさせていただいたが、昨年度同様美咲町教育委員会及び美咲町の教職員が、真摯にしかも全力でその職務に取り組んでいることを確認でき、その取り組み方、姿勢に心から敬意を表したい。

郷土美咲に誇りをもち、未来をきり拓いていく子どもたちが力強く、生き生きと育っていくことを切に願っている。